

防災報道 関心高まる87%

市民100人に聞く

防災・減災に関する市民アンケートまとめ 中部9県で100人に実施

1 東日本大震災後、防災・減災報道への関心は高まったか



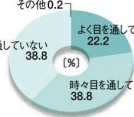
2 防災・減災報道を読む(視聴)するか



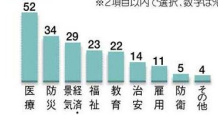
3 東日本大震災の報道でもっと知りたかったこと

- 帰宅時の交通機関状況
- 被災者の生の声
- 私たちにできる支援方法(支援物資の送り方など)
- 観光客は避けられたのか
- 現地の被害画像
- その時点でまだ分かっていないことの報道

4 「備える 3・11から」目を通してはいるか



5 予算で優先順位が高いのはどの分野か



6 100年に1度の規模とされる東日本大震災を踏まえ、国や行政は何年に1度の災害に備えるべきか



7 防災予算を工面するに認められるのは?



8 新聞の防災・減災報道で知りたいこと

- 過去の地震とその復興過程
- 地域のつながりのつくりかた(町内会の活動が縮小傾向のため)
- 具体的な避難の仕方(車に乗っていたときは?)
- 避難の時は家から出ない方がいいのか?高層ビル内の安全確保の方法は?)
- 備蓄しておくべき物とその量
- 防災報道はそのうち慣れてしまう。時々「唐辛子」のように目を覚ませるような危機感のある報道を記者が現場でみた今後に生かせる情報

身近な対策「紹介して」

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

近いうちに東海、東南海、南海の二連動地震が発生し、本固有の被害を受ける恐れがある中部地方。東日本大震災の経験を踏まえ、マスコミはどのような報道が求められているか。二十九日には、全国のメディアが被災報道のあり方を話し合う「マスコミ倫理懇話会」が名古屋市内で開かれ、開催に合わせ、中部九県の市民百人と各県、名古屋市の防災担当者に防災・減災報道に関するアンケートをした。(中村 真 沢田 千秋)

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

「速報」「周知」に期待 災害と報道 自治体調査

連載中の「備える 3・11から」に対するご意見・感想を電子メールか手紙でお寄せください。紙面作りの参考にします。メールは中日新聞社会部=shakai@chunichi.co.jp=へ。

今回は、防災・減災報道がテーマのマスコミ倫理懇話会の分科会を詳報します。

自宅はジャングルに

9月は一家にとって、8日に梨奈さん、11日に幸さんが誕生日を迎えるめでたい季節だ。

両日とも特別なお祝いはいしなかったが、同じころ一家に1本のビデオ映像が届いた。原発3km圏内の一時帰宅の際、テレビ局の依頼で光一さんが撮影した福島県大熊

町や自宅の映像が、放送後に返却されたのだ。

番組ではほとんどがカットされたが、30分の映像は、すべてが一家の貴重な記録だ。「うわ、通学路だ。懐かしい」「この店かなり壊れちゃったね」。仮設住宅の居間で、一時帰宅に同行できなかった梨奈さんと沙也加さんが、半年ぶりの光景に自然と声を上げる。

映像が自宅に移り、いつもなら夏野菜が

いつの日か

原発3km圏内の避難

実る庭の畑に、背丈以上の雑草が覆い茂るのを見ると、「え？ ジャングルみたい」。広くてきれいだっただけの風呂場は、少し開いていた窓から、土ぼこりが入り込んでいた。「放射能、すごいだろうね」。梨奈さんがつぶやくと、少し沈黙が続いた。場面が、放送時にも見た光一さんと幸さんへのインタビューに差しかかると、沙也加さんが言った。「お母さん、ここから泣くんだよ」。テレビには、マイクを前に

「今日はおきらめの日になりました」と目に手をやる幸さんが映った。今年の9月は、そんな映像が贈り物になってしまった。

福 (はなわ) さん一家 原発事故で大熊町から避難。光一さん(43)と妻幸さん(44)、次女沙也加さん(15)は愛知県豊田市で暮らした後、福島県会津若松市に移った。長女梨奈さん(19)は東京で大学生活。